

## 2016 臨床実習入門

1. 吐血が主訴となるのはどれか。  
a. 食道静脈瘤      b. 急性膵炎      c. 腸閉塞      d. 急性胆嚢炎      e. 急性膵炎
2. 嘔吐を起こすことが少ないのはどれか。  
a. ジギタリス中毒      b. 脳浮腫      c. 甲状腺クリーゼ      d. 食道憩室  
e. 糖尿病性ケトアシドーシス
3. 体重減少が摂食量の低下によらないものはどれか。  
a. うつ病      b. 食道癌      c. 消化性潰瘍      d. アルコール依存      e. 甲状腺機能亢進症
4. 動悸の原因となりにくいのはどれか。  
a. アルコール      b. コーヒー      c. 低血糖      d. 起立性低血圧      e. 黄疸
5. 腹痛の性状について適切でないものはどれか。  
a. 十二指腸潰瘍一夜間の腹痛  
b. 胆石症・右肩甲下部に放散痛を伴う  
c. 慢性腸間膜血管閉塞症・食後に増強  
d. 過敏症腸症候群・排便にて増悪する  
e. 急性膵炎・左季肋部～背部にかけての持続痛

問 6、7 次の文を読み、6、7 の問いに答えよ。

76 歳の女性。頭痛、嘔気および嘔吐を訴え、起き上がれないため搬入された。現病歴: 定時に起床しないため家族が訪室したところ、「つらくて起きられない」と訴えた。昨夜は通常通り就寝した。

既往歴: 30 歳から高血圧で治療している。生活歴、家族歴: 特記すべき事なし。

現症: 意識は清明、身長 150 cm、体重 38 kg、体温 35.7 °C、脈拍 120/分 整、血圧 86/64 mmHg、眼瞼結膜に異常認めない。顔色は不良で、苦渋顔貌、眼を閉じて側臥位をとっている。前胸部で皮膚ツルゴール低下し、口腔内は乾燥している。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部はやや膨隆し、臍周囲に圧痛がある。打診では鼓音を認める。

6. 初期対応として適切なのはどれか。  
a. 輸液    b. 輸血    c. 抗菌薬投与      d. 利尿薬投与      e. 消炎鎮痛剤投与
7. 初期の検査で適切でないのはどれか。  
a. 心電図      b. 頭部 MRI      c. 胸部 X 線検査      d. 腹部 X 線検査      e. 上部消化器内視鏡検査
8. 浮腫の原因とならないのはどれか。  
a.  $\beta$  遮断薬      b. ビタミン B1 薬      c. 卵胞ホルモン薬      d. カルシウム拮抗薬  
e. 非ステロイド性抗炎症薬
9. 圧痕を残さない浮腫の原因となるものはどれか。  
a. 心不全      b. 塩分過剰摂取      c. 深部静脈血栓      d. 甲状腺機能低下症  
e. ネフローゼ症候群
10. 発熱を伴わないものはどれか  
a. 腎膿瘍      b. 急性腎盂腎炎      c. 急性膀胱炎      d. 急性前立腺炎      e. 急性精巣上体炎

11. 発熱患者の診療において誤っているのはどれか。
- 海外渡航歴を聴取する。
  - 高齢者は易感染宿主と考える。
  - 糖尿病患者は易感染宿主と考える。
  - 悪寒戦慄のあるときは血液培養を行う。
  - 白血球が減少していれば重篤な感染症を否定できる。
12. 51 歳の男性。数日続く高熱と悪寒とを主訴に来院した。2 週間前に臀部膿瘍の切開排膿を受けた。体温 39.5°C、呼吸数 221 分、脈拍 96/分 整、指先 に有痛性の小結節を認める。呼吸音は正常。尿所見：蛋白（－）、糖（－）、潜血 1+。血液所見：RBC 487 万、Hb15.8g/dl、WBC 12,800（好中球 76%）。診断に重要な身体所見はどれか。
- 心雑音
  - 背部巧打痛
  - 腸蠕動低下
  - 肝下縁触知
  - 切開部硬結
13. 黄疸を起こしにくいのはどれか。
- 脂肪肝
  - 肝硬変
  - 肝癌
  - 胆管炎
  - 脾癌
14. 頭蓋内で痛覚を感受する組織はどれか。
- 硬膜
  - 大脳白質
  - 大脳基底核
  - 脈絡叢
  - 小脳
15. 閉塞性黄疸患者で尿中に増加するものはどれか。
- 蛋白
  - 糖
  - ウロビリノーゲン
  - 抱合型ビリルビン
  - 非抱合型ビリルビン
16. 主症状が胸痛でないものはどれか。
- 胸膜炎
  - 自然気胸
  - 肺水腫
  - 心筋梗塞
  - 胸部解離性大動脈瘤
17. 56 歳の男性。5 日前に皮膚の黄染に気がつき、徐々に増強してきたため来院した。尿の色が濃くなり、便の色は薄くなったが、腹痛と発熱は認めない。腹部は平坦、軟で、肝、脾を触知しない。
- 腹部 X 線検査
  - 静脈性胆道造影
  - 腹部超音波検査
  - 上部消化管内視鏡検査
  - 肝生検
18. 意識障害を起こすのはどれか。
- 痛風
  - 糖尿病
  - 骨粗鬆症
  - 変形性関節症
  - 前立腺肥大症
19. 意識障害の血液検査として適切でないのはどれか。
- アンモニア
  - Ca
  - リパーゼ
  - グルコース
  - BUN
20. 失神発作を起こしにくいのはどれか。
- 起立性低血圧
  - 大動脈弁狭窄症
  - 僧帽弁閉鎖不全症
  - 洞機能不全症候群
  - 肥大型閉塞性心筋症
21. 失神をきたさない疾患はどれか。
- もやもや病
  - 睡眠時無呼吸症候群
  - Adams-Stokes 症候群
  - 過換気症候群
  - 起立性低血圧

問 22、23 次の文を読み、22、23 の問いに答えよ。

25 歳の男性。意識消失発作を主訴に来院した。現病歴：受診日の早朝、車を運転中に便意を自覚した。排便したかったが、我慢をして運転を続けた。ガソリンスタンドに車を止めて、車外に一步踏み出たところで、発汗を認めた。そして頭から血が引いてゆく感じがして気が遠くなり、その場にゆっくりと倒れ込んだ。数秒後に意識は戻り、怪我はなく、歩行することができた。

既往歴：特記すべき事なし。

現症：身長 170 cm、体重 65 kg、体温 36.5°C、呼吸数 141 分、脈拍 80/分 整、血圧 100/80 mmHg、眼瞼結膜に貧血はなし。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経学的に異常所見を認めない。

22. この患者の診断にもっとも有用なものはどれか。

- a. 病歴   b. 身体診察   c. 血液検査   d. 胸部 X 線検査   e. 頭部 CT

23. このような発作を起こしにくい状況はどれか。

- a. HT   b. 排尿   c. 嘔吐   d. 運動   e. 疼痛

24. 40 歳の男性。通勤途中の電車の中で、突然、周囲がグルグル回って見えるようになり、体のバランスが保てなくなった。更に吐き気、耳鳴りおよび耳閉塞感も出現したので、救急車で来院した。今回は 4 回目の発作で意識消失はなし。この患者にみられる身体徴候はどれか。

- a. 発熱   b. けいれん   c. 眼振   d. 咳   e. 過呼吸

25. 繰り返すめまいと難聴とを特徴とする疾患はどれか。

- a. 耳硬化症   b. メニエル病   c. 前庭神経炎   d. 騒音性難聴   e. 良性発作性頭位めまい症

26. 次のうち耳鳴りを伴わないのはどれか。

- a. 耳硬化症   b. 前庭神経炎   c. 音響外傷   d. メニエル病   e. 聴神経腫瘍

27. 多尿をきたさないものはどれか。

- a. 低カリウム血症   b. 高カルシウム血症   c. 慢性腎盂腎炎   d. 甲状腺機能低下症  
e. 糖尿病

28. 咳を伴わないものはどれか。

- a. 胸膜炎   b. 気管支喘息   c. 過換気症候群   d. 慢性副鼻腔炎   e. うっ血性心不全

29. 無尿をきたすのはどれか。

- a. 大腸癌   b. 膀胱癌   c. 子宮筋腫   d. 前立腺肥大症   e. 両側尿管結石

30. 62 歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。1 ヶ月前に呼吸困難が出現し、増強してきた。喫煙は 30 本/日を 40 年間、体温 36.4°C、呼吸数 28/分、脈拍 104/分 整、血圧 132/86 mmHg、心音に異常を認めない。呼吸時に胸郭の動きに左右差を認める。左胸部の打診は濁音を呈し、聴診では左肺の呼吸音が減弱している。考えられるのはどれか。

- a. 気胸   b. 肺炎   c. 肺気腫   d. 無気肺   e. 肺塞栓

31. 25 歳男性。突然の胸痛と呼吸困難で来院した。頻呼吸で、チアノーゼを呈している。動脈血ガス分析を行ったところ PaO<sub>2</sub> 55 mmHg、PaCO<sub>2</sub> 65 mmHg であった。酸素をマスクで吸入させても状態が改善しないので、気管内挿管を行い、通常の換気量で陽圧換気を開始したところ、気道内圧が急激に上昇し、呼吸状態はますます悪くなった。血圧が 60/45 mmHg まで低下、心拍数が 135/分まで増加した。既往歴、家族歴に特記すべき事なし。診断を確定し処置するために、ただちに行う検査はどれか。

- a. 胸部 CT   b. 動脈血液ガス分析   c. 心エコー検査   d. 胸部 X 線検査   e. 気管支鏡検査

32. 感染対策上、空気感染予防策が必要な病原体を 3 つ挙げなさい。

→結核、水痘、麻疹

33. 24 歳の女性。1 週間前から両手足の先がしびれてきたので来院した。四肢遠位部の表在感覚と深部感覚の低下および四肢深部腱反射の低下を認める。病変部位はどこか。

a. 大脳皮質      b. 視床    c. 脊髄後索      d. 脊髄視床路      e. 末梢神経

34. 多関節炎をきたす疾患を 5 つ挙げなさい。

→・関節リウマチ    ・SLE    ・MCTD    ・多発筋炎    ・強皮症  
・リウマチ熱      ・側頭動脈炎    ・大動脈炎症候群  
・ウェゲナー肉芽腫症    ・ベーチェット病    ・成人 Still 病    ・強直性脊椎炎